

Ⅱ. 事業の概要

精和総合文化専門学校 総合教養学科(高等課程)

今年度は、老朽化が進んでいた旧校舎(名古屋市西区上名古屋)から、生徒の安全かつ安心な学習環境と学校生活を確保することを目的として、移転先の校地校舎を取得、整備(改修工事)を経て、現在の新校舎(名古屋市中村区亀島)へ移転した初年度にあたります。同時に、これまで学則上で募集停止状態にあったファッション専科(専門課程:夜間)の廃止(廃課程・廃科)及びそれに伴う「精和高等専修学校」への校名変更の手続き(学則変更認可申請)を完了し、次年度以降、名実共に「高等専修学校」としての質の保証・向上を目指す取り組みの推進とともに、入学定員の充足を達成し、学園と学校の経営基盤の安定化に努めます。

1. 教育方針

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、「こころ」も「からだ」も元気(=心身ともに健やか)な生徒の育成に努める。

2. 教育目標(目的)

- (1) 自分を高めるために、粘り強く努力ができる生徒の育成
- (2) 一人ひとりの違い(個性)を認め、思いやりの気持ちを持って人と接することができる生徒の育成
- (3) 自ら考え、判断し、主体的に行動できる生徒の育成

3. 事業概要

- (1) 生徒在籍数

平成26年5月1日現在

学年	学級数	定員数	現員数	備考
1年	2	80人	75人	入学定員40名から80名へ変更
2年	1	40人	37人	
3年	1	40人	37人	
計	4	160人	149人	入学定員増の完成年度:平成28年度

- (2) 平成26年度卒業生等の状況

卒業生	進学		就職		備考
36人	四年制大学	3人	専門・技術的職業	3人	
	短期大学	1人	販売・サービス業	7人	
	専門学校	9人	製造・加工・検査	2人	
	その他	1人	-----	----	
	計	14人	計	12人	

(3) 主な年間教育活動・学校行事・広報活動等の実施報告

	教育活動	学校行事・広報関係等
4月	■オリエンテーション ■個人面談	
5月		■校外研修(リトルワールド)
6月	■前期中間考査前放課後勉強会	■夏季スポーツ大会 ■進路説明会(3年生)
7月	■高等学校スクーリング- I 期 ■資格・検定講座 「介護職員初任者研修」他 各種資格・検定講座開催	■スケート研修(各学年) ■熊野宿泊研修(2年生) ■体験入学会① ■進路三者懇談会(3年生)
8月	■現職教職員研修	■体験入学会
9月	■前期末考査前勉強会 ■高等学校スクーリング- II 期 ■特別校外研修「専門学校をもっと知ろう」	■防災訓練(講話) ■前期末三者懇談会 ■中学校訪問(～11月)
10月	■外部講師による特別授業	■文化祭(全校) ■体験入学会③
11月	■後期中間考査前放課後勉強会	■秋季体育大会(全校) ■体験入学会④⑤
12月	■前期科目認定補習	■体験入学会⑥
1月		■推薦入試
2月	■学年末考査前放課後勉強会 ■名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 製菓製パン本科 特別授業	■一般入試 ■沖縄修学旅行(2年生)
3月	■学年末単位認定補習	■学年末三者懇談会

(4) 主な施設設備の整備実績

校舎移転に際し、前年度に主たる整備を終え、当年度は補足的な最終整備を行いました。主な整備概要は以下の通りです。

整備内容	金額
フード実習室 電源増設工事	184千円
教具及び少額備品(各実習室用)整備、校舎内掲示板整備等	6,889千円
情報機器等 更新整備(生徒用・教職員用)	5,579千円
連結送水管 修繕工事	162千円
計	12,814千円

※金額:千円未満四捨五入表記

名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校

平成26年度は、本校が設置する歯科衛生学科、製菓製パン本科が、それぞれ開設から10年、5年と節目を迎えるに際し、学校及び各学科の総合的な見直しとともに、専修学校としての質保証と向上への取り組みとして、文部科学省が創設した「職業実践専門課程」への平成27年度認定申請を計画し、それに向けた通年での継続的改善を図る管理サイクルを意識した事業活動を推進しました。

また、本校から至近の距離に校舎を移転した本学園設置の精和総合文化専門学校(高等課程)との連携教育構想もふまえ、学生生徒の社会的自立のための職業教育を基盤に、地域社会の発展に寄与できるよう、更なる教育展開に努めます。

1. 教育方針

- (1) 学生の現状と課題をふまえ、**学校力**(教職員が一丸となり、学生を指導支援する)、**教師力**(専門性を発揮し、分かる・身につく授業をする)、**人間力**(学生の豊かな人間性と社会性を養う)の**3つの力**により、学生の自己実現と自立を目指す。
- (2) 教育活動は、常に学生を中心に、PDCA(計画、実践、評価、改善)により、創意を生かした改善活動を行う。
- (3) 学生・保護者や地域から信頼される学校、教職員を目指す。

2. 教育目的

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、医療分野(歯科衛生学科)及び衛生分野(製菓製パン本科)の業界の需要に応え、また、更なる発展に貢献できるよう、本学の教育理念である豊かな人間性と確かな技術をもった有能な人材を育成することを目的とする。

3. 自己点検・評価及び学校関係者評価の実施 (評価対象事業年度:平成25年度)

専門学校等評価基準に基づき、学校教育活動その他の学校運営の状況について、自己点検・評価を実施しました。この自己点検・評価に基づき、さらに学校関係者評価委員によって課題や反省点、改善点等の検討を行い、教育水準の向上に、教職員一同、努力を傾けていく所存です。

また、「職業実践専門課程」への平成27年度認定申請に際し、この結果を学校ホームページ等で情報公開を行う予定です。

- (1) 自己点検・評価 平成26年6月1日
- (2) 学校関係者評価 平成26年9月18日

※歯科衛生学科・製菓製パン本科:共通事業

歯科衛生学科

1. 教育方針

実践力のある専門的知識と技術の習得を支援し、学生が自らの目標に向かい学習意欲や態度を培うことが出来るよう学生自身の自立と人間力の構築を目指す。

2. 教育目的

- (1) 高い使命感と倫理観を持った人間性豊かな医療人の育成
- (2) 専門的知識と技術及び科学的な思考力を統合した実践力の育成
- (3) 医療人としてのコミュニケーション能力の育成

3. 事業概要

(1) 学生在籍数

平成26年5月1日現在

学年	学級数	定員数	現員数	備考
1年	2	80人	82人	
2年	2	80人	77人	
3年	2	80人	77人	
計	6	240人	236人	

(2) 平成26年度卒業生等の状況

卒業生	国家試験合格者	専門分野就業者	備考
77人	77人 (100.0%)	76人 (98.7%)	1名進学

(3) 学生支援

① クラス担任制による早期個人面談、保護者面談

■ 個人面談・・・4～5月にかけて実施(在学中計3回)

■ 保護者面談・・・8～9月、2～3月に実施(必要な場合は随時)

学生個々の状況に応じて、学習・生活状況、諸問題(悩み等)を個別にフォローアップ

② 国家試験対策の強化

■ 国家試験受験年次となる3年生は、学外(業者主催)模擬試験を年間7回、臨床実習期間中は週1日の登校日に学内模擬試験を継続実施

■ 臨床実習終了後の11～12月に学内国家試験対策集中講座を開催

■ 1～2月には過去問題・予想問題による演習、その他課題等の反復提出

③ 学生教育の充実を考慮した基礎実習室の有効活用

■ 基礎技術習得・定着のための実技訓練のフォローアップ、1・2年生合同による相互実習

■ 歯科衛生士3大業務の内の「予防処置」と「診療補助」をミックスした臨床現場を想定した総合実習(主要3教科と3大業務の現場実践対応力の強化策の一環として)

※ 歯科衛生士の3大業務(主要3教科)・・・「歯科予防処置」「歯科診療補助」「歯科保健指導」

(4) 社会貢献・地域貢献

①地域歯科保健イベント

名古屋市内(中村区、西区、昭和区)の歯と口の衛生週間イベント、東海市、大府市の歯の健康まつり等のイベントに参加

②職業認知啓蒙活動

東山動物園(千種区)の来場者を対象としたイベント、昭和区民まつり等の活動に参加

③職業体験学習

高校生への職業体験イベント、出張職業体験実習(県内高等学校)の実施

(5) 学生研修・臨床実習

①病院見学(10月:2年生)

愛知学院大学歯学部附属病院 見学実施

現場の先生方より施設・設備・患者様への対応等について説明を受けながらの院内見学

②海外研修(11月:3年生)

ハワイ研修(アメリカの歯科医療の現状等について現地開催セミナーを受講)

③臨床実習(2年生:11月~3年生:10月)

歯科医院・診療所(55施設)、病院・医療センター(8施設)にて実施

(6) 教職員研修

①教育指導手法(コーチング)研修

学生指導における手法の研修、教育関係者を招いての講演・研修を実施

②教員研修・学会参加(専門技術研修)

■ 歯科衛生士専任教員講習会、研修会(全国歯科衛生士教育協議会)

■ 学術大会(日本歯科衛生教育学会)

③教職員研修(学園主催)

新人マナー研修、教育関係者を招いての講演・研修、学校法人会計研修等に参加

(7) 主な施設設備の整備実績

当年度の主な整備概要は以下の通りです。

整備内容	金額
実習室モニタ設備	213千円
実習機器(超音波スケーラー他)修繕	309千円
情報機器等 更新整備(職員用)	306千円
施設内補修営繕工事	200千円
計	1,028千円

※金額:千円未満四捨五入表記

製菓製パン本科

1. 教育方針

学生の現状と課題をふまえ、学校力(教職員が一丸となり、学生を指導支援する)、教師力(専門性を発揮し、分かる・身につく授業をする)、人間力(学生の豊かな人間性と社会性を養う)の3つの力により、学生の自己実現と自立を目指す。

2. 教育目的

「豊かな人間性と確かな技術」を兼ね備えた専門職業人(パティシエ、ブーランジェ)を養成することを目的とする。

3. 事業概要

(1) 学生在籍数

平成26年5月1日現在

学年	学級数	定員数	現員数	備考
1年	2	80人	59人	
2年	2	80人	69人	
計	6	160人	128人	

(2) 平成26年度卒業生等の状況

卒業生	国家試験合格者	専門分野就業者	備考
67人	47人 (70.1%)	63人 (94.0%)	1名専門分野外就業

(3) 学生支援(学生の人材育成像に基づいた取り組みの強化)

「人間性指導」「技術指導」「資格取得指導」を卒業時の全学生に対する到達目標として指導にあたり、本学科卒業生は、この点は確実であると自他ともに自信をもって認めることができる教育を目指して取り組みました。

①クラス担任制による早期個人面談、保護者面談

近年の学生は価値観や志向が多様化している実態を受け、画一的な指導のみでは対応が不十分となるため、定期的に、また状況に応じて「個別」面談を行い、一人ひとりの個性を伸ばす指導を重視しています。

また、学生の進路選択は、保護者の意向が反映される要素もあり、特に「就業先」は、学生と保護者との意向が異なるケースが増えてきているため、保護者会を開催したり、保護者との「個別」面談を行い、就業先の業界理解を促進し、学生にとってより良い進路決定につながるよう取り組んでいます。

②国家試験対策の強化(教科目授業の充実、課外授業、リカレント講習)

本学科は、国家資格である製菓衛生師の在学中取得に有効なカリキュラムを編成していますが、平常時より、授業教科目に対する学生の理解度を計るための定期小テストとその結果に応じた反復補習(課外)を徹底することで基礎力養成を支援し、8月にはリカレント講習を兼ねた国家試験対策講座を開講して国家試験対策の強化に努めています。

③将来像と目的の具現化

製菓製パン業界での活躍を目指して入学する学生は、活躍「したい」業界は明確でも、「具体的な将来像」を明確にできないまま時間が経過してしまうことも少なくありません。

本学科は、できるだけ多くの、様々な業界店舗を学生自身が歩き、自分の目で見て、自分がそこで「働いている姿」を想像し、個々が想像(イメージ)したことを画いてみる(文字にする)ことで、「具体的な将来像」へつなげていくことを目的として、学生の長期休業期間には、実店舗見学(レポート提出)を課題として設定し、学生同士で話し合ったり、クラス担任の教員と共有しながら、学生の将来像と目的の具現化に対する促進支援に努めています。

(4) 社会貢献・地域貢献(学科祭等行事開催による地域交流)

①「ユマパンフェスタ」(パンの製造から販売を実習実践) 平成26年6月7日

地域貢献の一環として、地域の方に校舎内を開放し、学生がパンを中心に製造、販売提供を実習実践することと同時に、保護者会を同日に行うことで、保護者に学生の成長した姿(製造、接客)を見ていただくことを目的として開催しました。

②「セイカ(製菓)展」 平成26年11月1日、2日

学生の日頃の学習と技術習得の“成果”とお菓子の“製菓”をかけあわせ、例年、学科祭として「セイカ展」を開催しています。地域貢献の一環として、開放した校舎内で洋菓子・和菓子・パンの販売提供や来場者に対するお菓子作りの体験実習等を行い、本学及び本学科の教育活動への理解を深めていただく機会としています。

(5) 学生研修及び技術コンテスト、インターンシップ等

①中部洋菓子技術コンテスト 平成26年9月3日

東海地区の専門学校生や洋菓子店の職人が集まり、技術を競い合う年1回開催のコンテスト大会
学生の部:本学科2年生 大会会長賞(1位)受賞、その他多数の学生が入賞

②東京研修 平成26年10月15日、16日

一日目は、コンテストの全国大会である「ジャパンケーキショー」を見学し、様々なレベルの高い作品を見ることで感性を養い、二日目は、国内の情報発信都市である東京で流行している洋菓子店やパン屋等の実店舗を見学しました。

③海外研修 平成26年12月2日～8日

洋菓子の本場であるフランスに一週間滞在し、フランス現地の菓子学校で技術を学び、洋菓子店の現場を見学する等、異文化に触れ、感性を磨きました。

④インターンシップ 平成26年4月(7日間程度)

2年生の5月頃からの本格的な就職活動に備え、製造現場や販売現場での実習(労働体験)を行うことで、より就職活動への意識を高め、就業先選択のミスマッチを無くすことを目的に実施しています。

(6)教職員研修

①教育指導手法(コーチング)研修

学生指導における手法の研修、教育関係者を招いての講演・研修を実施

②教員研修

学校内での学生への指導が主な業務であるため、現場のトレンドや流行、最先端の技術に疎くなりがちですので、常に新しい技術や知識、トレンドを理解することで学生への指導力を上げることを目的として、外部開催の技術講習や講演会等に参加しています。また、学内においても、教育関係者を招いて進路指導方法の講習会を行いました。

③教職員研修(学園主催)

新人マナー研修、教育関係者を招いての講演・研修、学校法人会計研修等に参加

(7)主な施設設備の整備実績

当年度の主な整備概要は以下の通りです。

整備内容	金額
デジタルサイネージ他設備整備	1,111千円
情報機器等 更新整備(職員用)	306千円
施設内補修営繕工事	351千円
計	1,768千円

※金額:千円未満四捨五入表記